

調査ノート（Ⅰ）

川 村 正 義

本学紀要で報告をしてきた「本学々生の体力について」は、毎年入学してくる新入生を対象に体力診断テストを実施しその結果を記してきた。

この間、約3100名の学生が対象となり10年目を迎えた。昭和45年頃と比べ今日では学生の意識変化、日常生活の変化等々、種々の面で変化があった。そこで体力問題を中心に本学々生の保健・体育・スポーツ等に対する現在の意識調査を加え「調査ノート」として報告する。今回の調査は「喫煙に関する質問」で学生の喫煙の実態を把握したいと考えた。又、昭和53・54・55年度生の体力診断テストの結果報告も行う。

〈Ⅰ〉

昭和53・54・55年度入学生の体力診断テスト結果報告

1. 調査の目的・対象

正課体育・課外活動を問わず事故発生が多くなる傾向にある。このような現状を踏まえ、正課体育のみならず事故防止の一環として、(イ)実技第一

調査ノート（I）（川村）

時間目の自己報告（病気等）(ロ)体育施設・用具の取扱いの説明、それに
 時期は入学時より1カ月ほど遅れるが(イ)自己体力の一部を知ること。
 等々に主に注意をはらっている。(イ)の項目に毎年体力診断テストを実施
 しているのである。

調査対象は北海道教養部並に岩見沢駒沢短期大学（女子のみ）の上記
 各年度入学生で正課体育内で実施した。調査期間は各年度5月の第3週
 目の1週間で実施した。

各年度対象人数は下記の通りである。

昭和53年度	男子	18才	102名		
		19才	67名		
		20才	16名	計	185名
	女子	18才	41名		
		19才	16名	計	57名
				総計	242名
昭和54年度	男子	18才	60名		
		19才	86名		
		20才	36名	計	182名
	女子	18才	31名		
		19才	25名	計	56名
				総計	238名
昭和55年度	男子	18才	80名		
		19才	113名		
		20才	39名	計	232名
	女子	18才	63名		
		19才	21名	計	84名

2. 調査内容及び処理

文部省「スポーツテスト」の体力診断テスト種目を実施した。

- 敏捷性——反復横とび
- 筋力 { 背筋力
握力
- 瞬発力——垂直とび
- 柔軟性 { 伏臥上体そらし
立位体前屈
- 持久力——踏台昇降運動

以上の5項目7種目を実施し、全国大学平均値との比較、各年度の年齢別比較・本州出身者と北海道出身者の比較、高校時代に運動部に所属していた者と一般学生との比較等々を行った。

A. 各年度・年齢別比較

〈男子〉

各年齢の3年間の様子は、①垂直とびに於いて各年齢とも下降ぎみである。②柔軟性を示す伏臥上体そらし及び立位体前屈では各年齢とも停滞している。また、20才に於いては踏台昇降運動が年々下降傾向を示している。各年度とも全体的には停滞ぎみとあってよい。

昭和54年度全国大学平均値との比較では、踏台昇降運動に於いては各年度・各年齢とも優っているが背筋力は劣っている。全体的には19才が優っていて、18才は平均、20才が劣る。

〈女子〉

19才の垂直とびが僅かではあるが年々上昇傾向にあるが、柔軟性は下降ぎみである。その他は全般的に停滞ぎみである。昭和54年度全国短期大学平均値との比較では、背筋力・立位体前屈及び踏台昇降運動に関し差が目立ち全体を通して劣っていることは明確である。

調査ノート (I) (川村)

● 体力診断テスト結果一覧表 (男子)

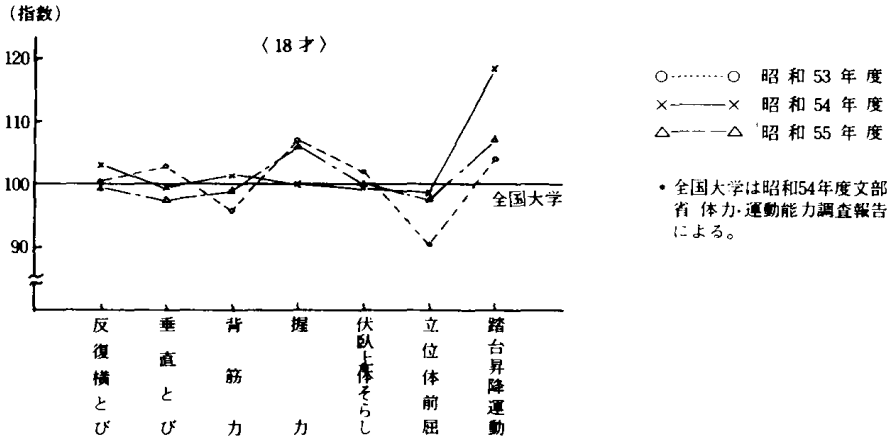
年度 年令 測定種目	昭和 53 年度								
	18 才			19 才			20 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	102	47.8	3.81	67	48.3	3.38	16	46.9	4.06
垂直とび	102	63.3	8.04	67	64.1	7.67	16	63.1	6.55
背筋力	102	125.4	18.03	67	128.1	16.40	16	123.1	14.36
握力	102	47.8	6.56	67	47.6	6.24	16	45.5	5.96
伏臥上体そらし	102	58.9	7.25	67	59.0	7.68	16	58.6	6.74
立位体前屈	102	13.6	4.93	67	15.0	6.02	16	13.3	5.79
踏台昇降運動	102	61.2	9.53	67	62.5	10.10	16	67.0	11.22

年度 年令 測定種目	昭和 54 年度								
	18 才			19 才			20 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	60	48.9	3.41	86	48.2	3.50	36	46.9	3.51
垂直とび	60	61.5	7.26	86	61.3	5.63	36	63.1	6.83
背筋力	60	132.7	18.67	86	134.2	17.51	36	135.9	24.28
握力	60	44.7	4.50	86	46.1	5.06	36	47.2	6.49
伏臥上体そらし	60	57.6	7.52	86	59.0	7.74	36	58.3	6.85
立位体前屈	60	14.8	5.03	86	15.5	5.36	36	16.5	5.10
踏台昇降運動	60	69.6	12.73	86	66.8	12.04	36	66.3	12.19

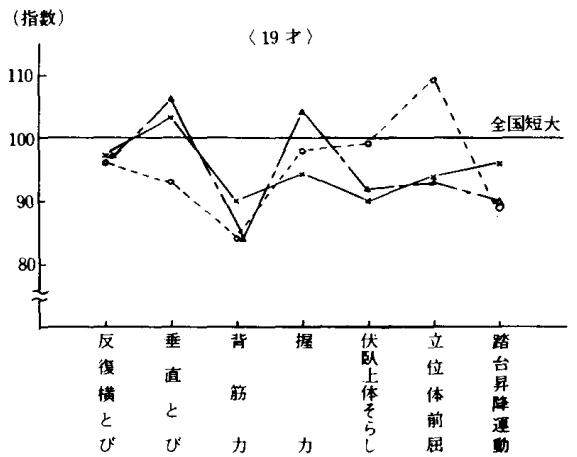
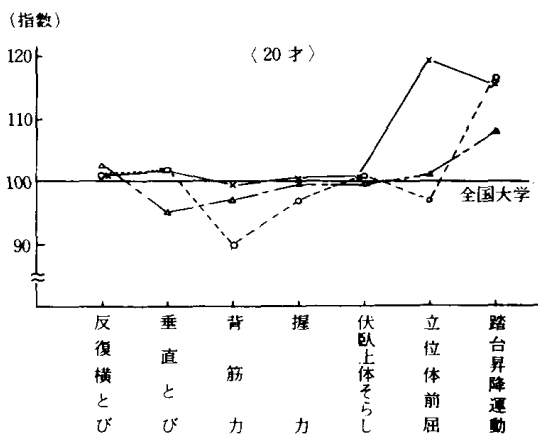
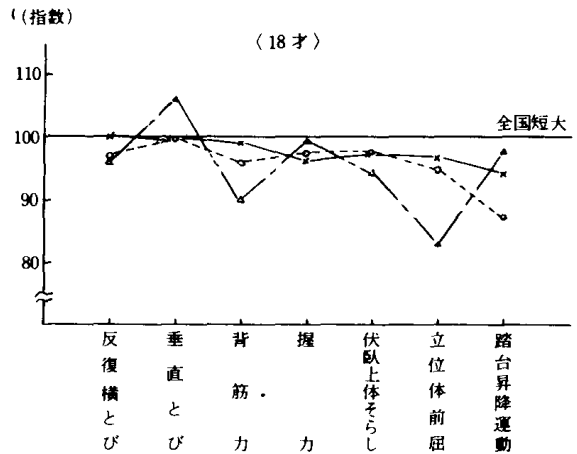
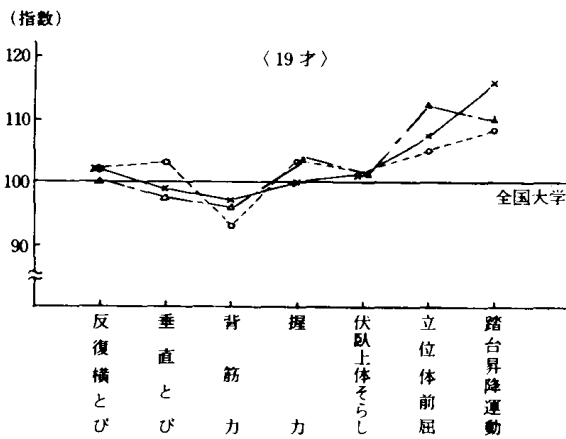
年度 年令 測定種目	昭和 55 年度								
	18 才			19 才			20 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	80	47.2	3.16	113	47.7	3.24	39	47.7	3.85
垂直とび	80	59.8	7.26	113	60.6	6.73	39	58.9	7.52
背筋力	80	129.5	17.94	113	132.5	21.06	39	132.7	17.69
握力	80	47.5	5.17	113	47.8	5.41	39	46.5	4.76
伏臥上体そらし	80	57.7	6.99	113	58.7	7.68	39	57.9	8.77
立位体前屈	80	14.7	5.94	113	16.1	5.13	39	14.0	5.86
踏台昇降運動	80	63.0	10.04	113	63.3	9.43	39	62.4	8.08

調査ノート (I) (川村)

●昭和54年度 全国大学平均値を100とした場合の本学々生の指数(男子)



●昭和54年度 全国短大平均値を100とした場合の本学々生の指数(女子)



調査ノート (I) (川村)

〈女子〉

測定種目	年度		昭和 53 年度					
	年齢		18 才			19 才		
			N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	41		39.6	2.67	16	39.8	2.51	
垂直とび	41		43.4	5.42	16	40.2	6.24	
背筋力	41		82.9	14.19	16	78.5	11.07	
握力	41		29.8	5.57	16	29.9	5.24	
伏臥上体そらし	41		56.9	5.86	16	59.2	5.42	
立位体前屈	41		17.3	4.53	16	19.5	5.47	
踏台昇降運動	41		51.6	5.84	16	53.5	8.25	

*測定種目単位

反復横とび……………点
 垂直とび……………cm
 背筋力……………kg
 握力……………kg
 伏臥上体そらし……………cm
 立位体前屈……………cm
 踏台昇降運動……………判定指数

測定種目	年度		昭和 54 年度					
	年齢		18 才			19 才		
			N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	31		40.9	4.32	25	40.0	2.95	
垂直とび	31		43.6	4.41	25	44.4	4.34	
背筋力	31		85.7	12.63	25	84.2	17.83	
握力	31		29.5	3.42	25	28.9	4.13	
伏臥上体そらし	31		56.7	5.78	25	53.8	5.84	
立位体前屈	31		17.7	4.92	25	16.8	5.61	
踏台昇降運動	31		55.7	5.31	25	57.8	12.00	

測定種目	年度		昭和 55 年度					
	年齢		18 才			19 才		
			N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	63		39.3	3.79	21	39.9	4.07	
垂直とび	63		45.2	4.42	21	45.6	4.58	
背筋力	63		77.9	11.02	21	79.3	8.18	
握力	63		30.3	3.76	21	31.8	3.40	
伏臥上体そらし	63		55.3	6.28	21	54.9	6.26	
立位体前屈	63		15.2	5.96	21	16.7	5.42	
踏台昇降運動	63		57.8	9.85	21	54.2	6.21	

調査ノート（I）（川村）

B. 本州出身者と北海道出身者の比較

学生の出身地を本州と北海道に区分して測定結果を比較してみた。在学生全体の出身地の比率は年々本州出身者の占める割合が高くなり、昭和55年度では80%に達している。この意味で北海道出身者の学生数が極端に少なく資料として不十分ではあるが比較してみた。各年度男子のみの比較とし、被測定者数は次の通りである。

昭和53年度

18才	本州出身者	70名		
	北海道出身者	32名	計	102名
19才	本州出身者	53名		
	北海道出身者	14名	計	67名

昭和54年度

18才	本州出身者	48名		
	北海道出身者	12名	計	60名
19才	本州出身者	80名		
	北海道出身者	6名	計	86名

昭和55年度

18才	本州出身者	63名		
	北海道出身者	17名	計	80名
19才	本州出身者	100名		
	北海道出身者	13名	計	113名

昭和52年度未まで北海道出身者が優っていた背筋力・握力ともに昭和53年度以降は本州出身者が優位になった。また昭和55年度18才を除き一般的に本州出身者が体力があるといえる。

調査ノート (I) (川村)

● 本州出身者と北海道出身者の比較表

年度 年令 測定種目	昭和 53 年度											
	㊦ 18 才			㊧ 18 才			㊦ 19 才			㊧ 19 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	70	48.4	3.66	32	47.0	4.03	53	50.5	3.44	14	47.7	3.19
垂直とび	70	64.1	7.87	32	61.8	8.13	53	64.4	8.03	14	63.1	6.27
背筋力	70	125.2	17.87	32	125.9	20.76	53	128.8	16.90	14	125.4	14.60
握力	70	48.1	6.96	32	47.2	6.26	53	48.4	6.59	14	44.4	3.25
伏臥上体そらし	70	59.7	7.00	32	57.3	7.62	53	59.7	7.62	14	56.2	7.56
立位体前屈	70	13.7	4.30	32	12.8	5.75	53	14.8	6.57	14	16.1	3.24
踏台昇降運動	70	62.3	9.51	32	58.8	9.25	53	63.4	10.06	14	62.5	10.10

年度 年令 測定種目	昭和 54 年度											
	㊦ 18 才			㊧ 18 才			㊦ 19 才			㊧ 19 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	48	49.0	3.54	12	48.3	2.87	80	48.3	3.43	6	47.3	4.63
垂直とび	48	62.1	7.02	12	59.3	8.34	80	61.1	5.61	6	62.5	6.22
背筋力	48	133.7	19.43	12	128.8	15.39	80	134.3	17.33	6	131.7	21.37
握力	48	44.9	4.66	12	44.0	3.91	80	46.1	5.17	6	45.3	3.27
伏臥上体そらし	48	59.1	6.68	12	51.7	8.14	80	59.1	7.82	6	57.0	6.75
立位体前屈	48	14.7	4.96	12	15.2	5.50	80	15.5	5.42	6	15.5	4.81
踏台昇降運動	48	72.2	11.67	12	59.3	12.00	80	67.5	12.11	6	57.7	6.03

年度 年令 測定種目	昭和 55 年度											
	㊦ 18 才			㊧ 18 才			㊦ 19 才			㊧ 19 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	63	47.0	3.11	17	47.7	3.89	100	47.8	3.23	13	46.2	3.11
垂直とび	63	59.2	7.06	17	61.9	7.85	100	60.7	6.85	13	59.1	5.82
背筋力	63	128.8	18.00	17	132.1	18.03	100	132.6	21.68	13	131.2	16.16
握力	63	46.7	4.92	17	50.2	5.29	100	47.9	5.35	13	47.2	6.06
伏臥上体そらし	63	58.1	7.26	17	56.2	5.86	100	58.9	7.81	13	57.1	6.77
立位体前屈	63	14.9	6.08	17	13.6	5.42	100	16.5	5.20	13	13.6	3.79
踏台昇降運動	63	63.4	10.11	17	61.4	9.90	100	63.5	9.79	13	62.1	6.14

(注) ㊦ 本州出身者 ㊧ 北海道出身者

調査ノート（I）（川村）

C. 高校時代の運動部所属者と一般学生の比較

高校時代に運動部に所属し実活動を2年以上していた者を運動部所属者とした。被測定者数は次の通りである。

昭和53年度

18才	所属者	33名		
	一般学生	69名	計	102名
19才	所属者	28名		
	一般学生	39名	計	67名

昭和54年度

18才	所属者	17名		
	一般学生	43名	計	60名
19才	所属者	29名		
	一般学生	57名	計	86名

昭和55年度

18才	所属者	29名		
	一般学生	51名	計	80名
19才	所属者	47名		
	一般学生	66名	計	113名

運動部所属者に於いて昭和52年度までは一般学生より劣る種目が1～2あったが、昭和53年度以降この3年間では全ての種目に優位にある。特に背筋力と立位体前屈にその優位さが目立つ。

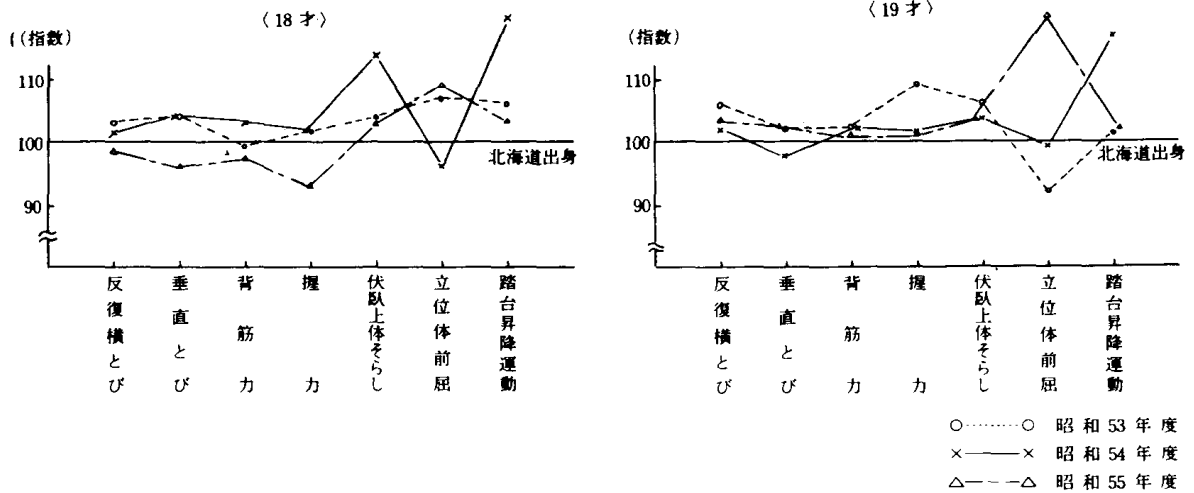
以上の様にこの3年間は過去のデータに比べ比較対象の優劣が明確になった。本州出身者と北海道出身者との差、運動部所属者と一般学生との明らかな差は運動の継続の大切さを知ることができる。現在、全国的な傾向でもある背筋力の低下・柔軟性の停滞は本学に於いても同様で

調査ノート (I) (川村)

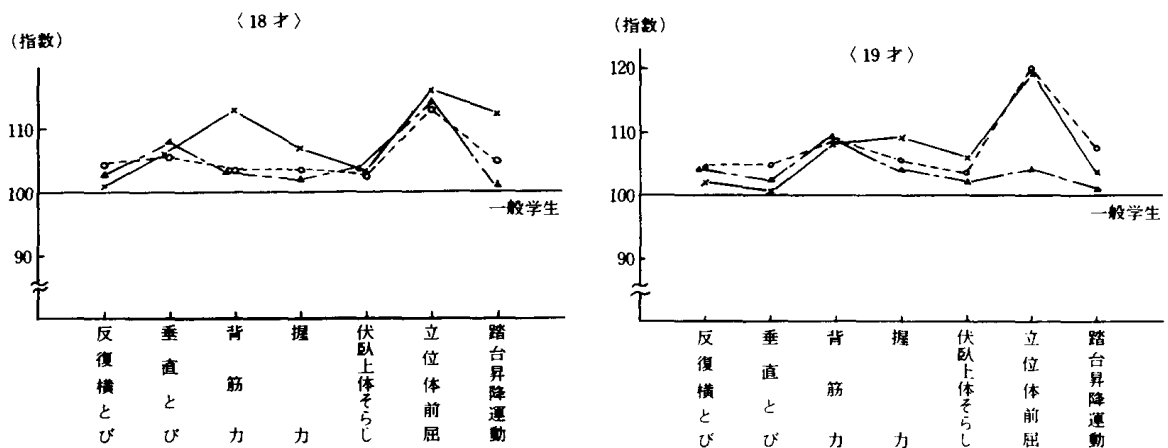
ある。

女子に於いては全国短大平均値より大変悪い結果がでた。筋力もない持久力もない結果が出て正課体育をどう展開すべきか検討し直した。また、このような衰えは技術面にも出て来るもので何をやっても「とろさ」が目立つのである。そこで正課体育では技術面はともかく運動をして「身体に苦勞をかけよう！」を目標にちょっと激しい運動を実施することにした。

●各年度 北海道出身者を100とした場合の本州出身者の指数



●各年度の一般学生を100とした場合の運動部所属者の指数



調査ノート (I) (川村)

● 高校時代の運動部所属者と一般学生の比較表 (男子)

年度 年令 測定種目	昭和 53 年度											
	④ 18 才			⑤ 18 才			④ 19 才			⑤ 19 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	33	49.5	3.50	69	47.2	3.69	28	49.6	3.26	39	47.5	3.22
垂直とび	33	65.8	7.72	69	62.2	7.98	28	65.9	6.89	39	62.9	8.02
背筋力	33	128.4	17.49	69	124.0	18.26	28	134.3	15.20	39	123.6	15.94
握力	33	49.1	7.33	69	47.2	6.48	28	49.1	7.10	39	46.5	5.36
伏臥上体そらし	33	60.0	7.02	69	58.4	7.35	28	60.2	8.06	39	58.0	7.19
立位体前屈	33	14.7	4.83	69	13.0	4.79	28	16.7	5.68	39	13.9	6.06
踏台昇降運動	33	63.5	8.48	69	60.0	9.69	28	65.2	10.18	39	60.6	9.40

年度 年令 測定種目	昭和 54 年度											
	④ 18 才			⑤ 18 才			④ 19 才			⑤ 19 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	17	49.4	3.95	43	48.7	3.19	29	48.9	3.23	57	47.9	3.61
垂直とび	17	64.4	6.70	43	60.4	7.24	29	61.7	5.30	57	61.1	5.82
背筋力	17	144.4	15.90	43	128.0	17.77	29	141.1	18.05	57	130.6	16.29
握力	17	46.9	5.66	43	43.8	3.67	29	48.8	4.58	57	44.7	5.02
伏臥上体そらし	17	59.2	6.41	43	57.0	7.90	29	61.3	6.45	57	57.8	8.12
立位体前屈	17	16.4	3.99	43	14.2	5.29	29	17.3	3.98	57	14.5	6.77
踏台昇降運動	17	75.7	10.70	43	67.2	12.77	29	68.5	12.48	57	65.0	11.82

年度 年令 測定種目	昭和 55 年度											
	④ 18 才			⑤ 18 才			④ 19 才			⑤ 19 才		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
反復横とび	29	48.0	2.96	51	46.7	3.21	47	48.8	3.22	66	46.8	3.01
垂直とび	29	60.5	8.67	51	59.4	6.31	47	61.5	7.05	66	59.9	6.48
背筋力	29	131.1	15.49	51	126.7	19.16	47	139.3	24.09	66	127.6	17.20
握力	29	48.1	5.01	51	47.1	5.28	47	49.0	5.36	66	46.9	5.32
伏臥上体そらし	29	59.3	7.49	51	56.8	6.60	47	59.5	7.35	66	58.1	7.93
立位体前屈	29	15.9	6.37	51	13.9	5.62	47	16.5	5.34	66	15.9	4.98
踏台昇降運動	29	63.6	11.35	51	62.7	9.32	47	63.8	10.96	66	63.0	8.25

(注) ④ 運動部所属者 ⑤ 一般学生

調査ノート (I) (川村)

〈Ⅱ〉

日常生活に於ける健康問題を取り上げる時、見逃せないのが喫煙問題である。喫煙の発癌性や、呼吸循環系に及ぼす影響も明らかにされている。また喫煙による持久力の低下も多く報告されている。喫煙も一度経験するとやめられない物の一つといわれ本学々生に於いても喫煙者は相当な割合を占めるものと思う。また体力診断テスト結果から持久力の下降傾向が見られるので健康教育の上から喫煙傾向を把握するため「喫煙に関する調査」を実施したのでその結果報告をする。

1. 調査期間 昭和55年 5月12日～15日
2. 調査対象 昭和55年度北海道教養部及び短期大学新入生

男子	18才	130名		
	19才	138名		
	20才	58名	計	326名
女子	18才	73名		
	19才	26名	計	99名
			総計	425名

3. 調査方法

左記の調査用紙「喫煙に関する質問」を授業時に配布し多少説明を加え質問事項に回答する方法をとった。

調査ノート (I) (川村)

喫煙に関する質問

性別 (男・女) 年令 (満 才)

出身県 ()

質問 1. あなたは、今までにタバコをすったことがありますか。

(はい, いいえ) (いずれかに○印をつける、以下同じ)

*以下の質問は「はい」と答えた人が続けて下さい。

質問 2. あなたは、はじめてタバコをすったのは何才のときでしたか。

() 才

その時は何月ごろでしたか。() 月頃

質問 3. あなたは、はじめてタバコをすったときどのような気分になりましたか。

質問 4. あなたは、はじめてタバコをすったときの動機は何でしたか。

質問 5. はじめてすったタバコはどのように手に入れましたか。

質問 6. はじめてタバコをすった所はどこですか。(具体的に記入下さい)

質問 7. あなたは何才頃から、定期的に週1本又はそれ以上すいはじめましたか。

質問 8. あなたは過去3週間の間にタバコをすいましたか。

(はい, いいえ)

「はい」の方、過去3週間の間にどのくらいすいましたか。
週に () 本程度

質問 9. あなたが現在、タバコをすっている場合過去にやめようと努力をしたことがありますか。

(はい, いいえ)

「はい」と答えた人は簡単にその理由を記入下さい。

質問 10. あなたは、タバコが肺・心臓に悪影響を与えることを知っていますか。

(はい, いいえ)

質問 11. 現在、あなたがタバコをすっていることを両親は知っていますか。

(はい, いいえ)

質問 12. あなたにとって、タバコはどんな存在ですか。

(調査年月日: S 年 月 日)

調査ノート (I) (川村)

4. 調査結果

質問1. 喫煙経験者の数は次の通りであった。

男子	「はい」	278名	} 326名	85.3%
	「いいえ」	48名		14.7%
女子	「はい」	51名	} 99名	51.5%
	「いいえ」	48名		48.5%

質問2. 初めてタバコを経験した年令を表1に示した。

表1. はじめてタバコを吸った年令
(男子)

(女子)

年令 経験	18才	19才	20才	合計		18才	19才	合計	
7才	1			1	} 6.1%				
8	0			0					
9	1			1					
10	2	8	1	11	} 2.0%	1		1	
11	1	3	0	4		0		0	
12	10	3	1	14	} 20.9%	1	1	2	} 25.4%
13	9	2	2	13		3	0	3	
14	13	14	4	31		7	1	8	
15	13	18	11	42	} 51.1%	5	2	7	} 51.0%
16	20	23	11	54		9	2	11	
17	21	20	5	46		6	2	8	
18	20	15	10	45	} 20.5%	5	5	10	} 19.6%
19	☆	5	3	8		☆	1	1	
20	☆	☆	4	4		☆	☆	☆	
不明	1	3	0	4	} 1.4%	0	0	0	
計	112	114	52	278		37	14	51	

調査ノート (I) (川村)

同年代でも1才の年齢の違いで経験年齢が早いことに注目したい。また男女共、初経験は15才~17才で約50%でありこれに18才を加えると70%に達しこの時期に集中している。月別をみると男子では1~3月と11・12月が平均3.0~5.0%、4月~10月では平均8.0~14.0%である。最高の月は8月の14.4% (40名) で夏期休暇中の7月を加えると22.7%となる。女子も男子同様7・8月で23.5%と多く休暇中に経験する者が4人に1人弱いることになる。

質問3. 初めて吸った時の身体に感じた状態を調べた。幾つかの項目が答えとして出てくるがその中でも一番印象に残っているものに○印を付けてもらいその結果が表2である。

表2. 初めてタバコを吸った時の状態(気分)

状 態	男		女	
	人数	%	人数	%
いつもと変わらない	77	27.7	22	43.1
めまいがした	86	30.9	9	17.6
気持ちが悪くなった	38	13.7	3	5.9
頭がぼんやりした	20	7.2	0	0
むせんだ	26	9.4	6	11.8
気持ちよかった	19	6.8	3	5.9
まずかった	10	3.6	2	3.9
不 明	2	0.7	6	11.8
計	278	100.0	51	100.0

喫煙の仕方(吸い方)によって大変左右されるものと思うがその結果「普通の状態」と回答した者が男子で27.7%「めまい」30.9%、「はきけ」13.7%等々で何らかの異常を感じた者が多い。女子に於いては「普通の状態」が43.1%であるが、これは口にした程度の者が多いと思われる。

質問4. 動機については表3に示した通り「先輩、友人に勧められた」がトップで25.2%、「好奇心」「何んとなくその場の雰囲気」と続いている。女子に於いては「好奇心」が35.3%でトップである。「好奇心」を持ち続けているので何らかの、きっかけがあれば直ぐにでもとびつく状態にある。「精神的にイライラしていた」の原因は男子では受験の失敗、女子では恋愛問題が多かった。

調査ノート (I) (川村)

表3. 初めてタバコを吸った動機

動機	男		女	
	人数	%	人数	%
先輩や友人に勧められた	70	25.2	9	17.6
興味があった	22	7.9	0	0
好奇心	69	24.8	18	35.3
その場の雰囲気	55	19.8	6	11.8
面白半分	22	7.9	3	5.9
吸いたかった	14	5.0	7	13.7
精神的にイライラしていた	5	1.8	5	9.8
その他	21	7.6	3	5.9
計	278	100.0	51	100.0

表4. 入手経路

入手経路	男		女	
	人数	%	人数	%
店で購入	55	19.8	7	13.7
自動販売機	26	9.4	4	7.8
友人から	110	39.6	23	45.1
先輩から	12	4.3	3	5.9
家人のもの	62	22.3	14	27.5
その他	13	4.6	0	0
計	278	100.0	51	100.0

質問7. 初めて喫煙経験 (質問2. 表1参照) をしてから規則的に喫煙をし始める年齢傾向を表6に示した。

初めてタバコを吸った時の年齢が若いほどその後、直ちに習慣化された喫煙者になる割合は低い。だが15才を境に次第に常習化する傾向が高くなり男女共17才までに5人に2人の割合で常習化傾向を示している。

質問5. 初めてのタバコの入手経路を表4に示した。意外だったのは自動販売機が店での購入より少なかったことである。男女共「友人から」がトップで各々39.6%、45.1%である。次は「家人のもの」で男子で22.3%、女子では27.5%である。「火元は身近にあり」という感じである。

質問6. 初めて吸った場所を表5に示した。トップは男女共「自宅」であり男子37.3%、女子52.9%である。自宅の内でも具体的に「自分の部屋」と回答したのは男子で20.1%女子で29.4%である。次に多いのは「友人の家」である。女子に於いては「自宅」「友人の家」と回答した者が80%を越え家の中に「こもる」傾向にある。

調査ノート (I) (川村)

表5. 初めて吸った場所

場 所	男		女	
	人数	%	人数	%
飲食・喫茶店	25	9.0	5	9.8
遊技場	8	2.9	1	2.0
小中高の学校施設	18	6.5	2	3.9
自 宅	104	37.3	27	52.9
友人の家	55	19.8	15	29.4
下 宿	8	2.9	1	2.0
公園や郊外	33	11.9	0	0
キャンプ場	11	3.9	0	0
交通機関内	8	2.9	0	0
その他	8	2.9	0	0
計	278	100.0	51	100.0

これを19才までで見ると男子では5人に4人、女子で2人に1人の割合いで常習化傾向を示している。年齢が進んでから初めてタバコを経験した者は1年以内には常習者になっている者が多いと思われる。

質問8は大学入学後の状況を知る為に設けた質問である。これによると過去3週間にタバコを吸った学生に男子85.3%(237名、吸っていない41名)女子70.6%(36名、吸っていない15名)であった。また吸った本数は週に平均77~105本(1日11~15本)が男子では一番多く42.6%を占め、次に週7~35本(1日1~5本)が26.6%であった。1日1箱以上という者が13.5%もいる。女子では週7~35本(1日1~5本)が41.7%を占め男子に比べ喫煙量は多くない。

質問9. 現在(質問8の過去3週間を示す)吸っている者が過去に於いて「禁煙」の努力をしたことがあるか。これに対して男子では131名(55.3%)が努力したと回答。女子では25名(69.4%)であった。その理由として男子は「身体に悪いと思う」43.5%、「お金がかかる」23.7%、「体力が落ちる」21.4%が主なものであった。「体力が落ちる」の内には「運動部に入ったので体力が落ちないように、運動部に入って先輩に体力が落ちるからやめろといわれたから、等々の内容も含んでいる。この意味では運動部の存在価値は高く評価できる。女子では「身体に悪いと思う」が48.0%で約半数を占める。また女性らしい回答として「彼が吸わないから」が20.0%で男性の影響が大きいことを示している。

質問9. 現在(質問8の過去3週間を示す)吸っている者が過去に於いて「禁煙」の努力をしたことがあるか。これに対して男子では131名(55.3%)が努力したと回答。女子では25名(69.4%)であった。その理由として男子は「身体に悪いと思う」43.5%、「お金がかかる」23.7%、「体力が落ちる」21.4%が主なものであった。「体力が落ちる」の内には「運動部に入ったので体力が落ちないように、運動部に入って先輩に体力が落ちるからやめろといわれたから、等々の内容も含んでいる。この意味では運動部の存在価値は高く評価できる。女子では「身体に悪いと思う」が48.0%で約半数を占める。また女性らしい回答として「彼が吸わないから」が20.0%で男性の影響が大きいことを示している。

調査ノート (I) (川村)

表6. 規則的に週1本又はそれ以上吸い始めた年齢
 (男子) ()内は初めてタバコを吸った年齢 (女子)

年齢 喫煙	18才	19才	20才	計		18才	19才	計			
7才	(1)			(1)	}						
8	(0)			(0)							
9	(1)			(1)		(6.1%)					
10	1(2)	2(8)	(1)	3(11)	} 2.2%	(1)		(1)	} (2.0%)		
11	1(1)	2(3)	(0)	3(4)		(0)	(0)				
12	0(10)	0(3)	(1)	0(14)	} 5.7%	(1)	(1)	(2)	} (25.4%)		
13	1(9)	1(2)	(2)	2(13)		(3)	(0)	(3)			
14	8(13)	5(14)	1(4)	14(31)		(7)	(1)	(8)			
15	10(13)	9(18)	5(11)	24(42)	} 38.5%	2(5)	(2)	2(7)	} 35.3%		
16	15(20)	9(23)	7(11)	31(54)		(51.1%)	5(9)	(2)		5(11)	(51.0%)
17	22(21)	24(20)	6(5)	52(46)		8(6)	3(2)	11(8)			
18	31(20)	29(15)	12(10)	72(45)	} 36.3%	8(5)	2(5)	10(10)	} 21.6%		
19	☆	18(5)	7(3)	25(8)		(20.5%)	☆	1(1)		1(1)	(21.6%)
20	☆	☆	4(4)	4(4)		☆	☆	☆			
不規則	23	15	10	48	} 17.3%	14	8	22	} 43.1%		
計	112	114	52	278		37	14	51			

表7. タバコを吸っていることを両親は知っているか
 (男子)

回答	18才	19才	計	20才
はい	61(54.5%)	81(71.0%)	142(62.8%)	37(68.5%)
いいえ	30(26.8%)	19(16.7%)	49(21.7%)	6(16.2%)
?	21(18.7%)	14(12.3%)	35(15.5%)	9(17.3%)
計	112	114	226	52

る。その他に男女共
 「記憶力が落ちるから」 「受験勉強のため」等の回答もあった。しかしこの努力が長続きしたかどうかこの調査では残念

調査ノート (I) (川村)

〈女子〉

回答	18才	19才	計
はい	10(27.0%)	2(14.2%)	12(23.5%)
いいえ	18(48.6%)	6(42.9%)	24(47.1%)
?	9(24.4%)	6(42.9%)	15(29.4%)
計	37	14	51

ながら不明である。

質問10ではタバコの害について呼吸循環機能系を上げて質問してみた。この結果、男女各年令とも

100%影響のあることを認識していた。質問11は未成年である学生の喫煙を両親（又は片方の親）が知っているか否を学生側からの回答として示したのが表7である。

男子では年令が若いほど両親が「知らない」ケースが多い。また未成年者である18才・19才で62.8%の学生が両親の公認のもとではないと思うが「知っている」と回答している。それに比べ女子では「秘密にこっそり」タイプが多いようで「知らない」と「？」で76.5%にも達する。

質問12では未成年でありながら大学生というだけで社会的にも半ば公認となっている喫煙について、タバコがどんな存在にあるかを質問してみた。ベスト3は男子では「生活必需品」と回答した者が24.1%、「暇な時の友」18.0%、「気分転換の道具」が17.6%であった。女子は「あっても無くてもいい」が19.6%、「気分転換の道具」13.7%、「暇な時の友」11.8%で男子よりその必要性を感じている者は少ない。

以上、調査結果を記したがまとめとして、喫煙経験者が予想より10%程度男女とも高かったこと、初めての喫煙経験年令が早くなって来ること、初経験者のタバコ入手経路が4人に1人が「家人のもの」であり吸った場所は男子で3人に1人、女子では2人に1人が「自宅」であった。また子供が喫煙していることを知っている両親が男子で60%強もいること等々から家庭での「喫煙に関する話し合い」が必要と考える。マラソンブームといわれジョガーが非常に多くなって来ているが走る

調査ノート (I) (川村)

ことにより「身体にどのような変化が生じるか」を知らないジョガーが多いといわれる。タバコも同様にその「害」を知っておかないと自分の子供を自からの手で「身体にとって悪い方へ」導いていることになり、この点で両親の責任は大きい。

本学の学生の体力は18才より19才、19才より20才と加齢とともに全国大学平均値より低くなってきている。たしかに「現在の生活には支障がないから」という考えは学生には多分にある。タバコに対しても「慣れれば平気だよ」という学生も多い。規則的に喫煙を始める年齢が早いことと、体力の低下の関係をすることは大変困難なことである。しかし喫煙者と非喫煙者の間にはあらゆる点で良否が明らかである研究報告も多い。「現在の生活……」ではなく「生涯」を考えて体力面と健康面の両面を考える生活態度を身につけさせたいものである。